

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

| | | | | | | | |
|-------|--------------------------|------|-------|-------|------------|--------|--------|
| 事務事業名 | 首都圏等交流活動支援事業 | 会計 | 一般会計 | 事業No. | 367 | 施策順No. | 12-005 |
| | | 事業種別 | 政策・重点 | 予算科目 | 7-1-4-10-4 | | |
| 政策 | 1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり | | | 課等名 | 産業振興支援課 | | |
| 施策 | 12 人材育成と企業、人材誘導 | | | 事業期間 | 開始 | 11 | 終了 |

1 事業の目的

| | | | | | | | | |
|-------------------------------|--|--|--------|--------|--------|--------|--------|--|
| 事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです | 対象 | 飯田市出身者、飯田市と関連ある首都圏・中京圏等都市生活者 関連する周辺都市、マスメディア等 | | | | | | A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない |
| | 誰、何に | 具体的な数値で表すと(対象指標) | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | |
| | | ふるさと大使館来訪者数(人) | | 300 | 300 | 400 | 400 | |
| | | 交流・情報発信の対象とする都道府県(県) | | 5 | 5 | 5 | 5 | |
| 意図 | 対象をどう変えるか | 首都圏等における南信州地域の認知 関係者とのコミュニケーションの強化 | | | | | | 目標達成度 A |
| | 事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標) | 19年度実績 | 20年度実績 | 21年度実績 | 22年度目標 | 22年度実績 | 23年度目標 | |
| | ふるさと大使館等を通じた情報発信数(件) | 800 | 3765 | 840 | 3800 | 850 | 850 | |
| | | | | | | | | |
| 22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】 | 将来を見据えながら、これまでのふるさと会連合会との良好な関係を維持しつつ、新しい力やつながりづくりの取り組みを進めた | | | | | | | |

2 手段(具体的な取り組み内容)

| | | | |
|--------------|--|---|-----------------------------------|
| 事業の制度(仕組み)説明 | <p>交流・情報発信拠点として信州飯田ふるさと大使館を運営し、ふるさと大使や飯田出身者など飯田ゆかりの人による情報交換や交流の仕掛けにより、飯田情報の発信を強化し、人材の交流や観光、地域産品のPRによる地域の認知度向上を行う。 また、東京、中京、遠州ふるさと大使の持つ人脈やネットワークを介し、飯田市の魅力を発信するとともにキーマンを発掘し、飯田地域への人材誘導、企業誘致、地域産業の多様な連携・発展につなげていく。</p> | | |
| | 事業内容 | 名称 | 活動量・単位 |
| 22年度事業内容 | <p>1 首都圏、中京・三遠南信地域との交流活動の推進支援 (1) 信州飯田ふるさと大使館(東京)の運営を通じた情報収集と飯田地域を知っていただくための情報発信 (2) 信州飯田ふるさと会連合会と連携して、組織の発展・強化を進めるとともに、出身者の飯田への貢献プロジェクト等促進、支援 (3) 東京において飯田出身者の懇談会を開催。特に30代～50代を中心に各方面で活躍されている方を中心に、懇談会形式で飯田との絆を深め、飯田ゆかりの人材の多様な力をふるさと飯田へつなげる (4) 平成23年春(5月)に予定される信州飯田ふるさと会連合会総会及び東京の飯田まつりの企画・運営の支援</p> | <p>(1) 大使館利用人数 (2) 連携事業検討数 (3) 懇談会開催数 (4) ふるさと会役員会参加数</p> | <p>200人 1件 1回 20人</p> |
| 23年度実施計画 | <p>1 首都圏、中京・三遠南信地域との交流活動の推進支援 (1) 信州飯田ふるさと大使館(東京)の運営を通じた情報収集と飯田地域を知っていただくための情報発信 (2) 大使館を拠点として、組織を拡充し、人材の交流や誘導を促進 (3) 第7回信州飯田ふるさと会連合会開催の支援 (4) 特に30代～50代を中心に各方面で活躍されている方を中心に、懇談会形式で飯田との絆を深め、飯田ゆかりの人材の多様な力をふるさと飯田へつなげる人材交流のきっかけづくり、中京圏でのPR、産業連携などの強化</p> | <p>(1) 大使館利用人数 (2) 連携事業検討数 (3) 総会参加者数 (4) 懇談会開催数</p> | |

3 事業コスト

| | | | | | | |
|-------------|-------|-------|---------|---------|---------|-------------|
| 事業費 | 特定財源 | (千円) | 22年度予算額 | 22年度決算額 | 23年度予算額 | 特定財源内訳、補足事項 |
| | 国庫支出金 | | | | | |
| | 県支出金 | | | | | |
| | 起債 | | | | | |
| | その他 | | | | | |
| 一般財源 | | 2,303 | 2,301 | 3,779 | | |
| 計(A) | | 2,303 | 2,301 | 3,779 | | |
| 正規職員所要時間 | | | | | | |
| 臨時職員等所要時間 | | | | | | |
| 人件費計(B) | | | | 0 | | |
| トータルコスト A+B | | | 2,301 | | | |

4 事業に対する市民や議会の意見

ふるさと会員(首都圏在住者)からはふるさと大使館を核とする活動の促進要請は強い。また、首都圏や主要都市圏における情報発信を補う手法として、ふるさと大使や関係協力者の応援を求める声も強い。
交流事業と人材活用を分けるとともに、ふるさと大使館ふるさと大使のあり方を見直し、目的の明確化を図られたい。(議会より)

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

| | | | |
|--------------------|--------|------------------|----------------|
| 行財政改革の取組区分 | 【記載不要】 | 具体的な取組事項 | 【政策的事業のため記載不要】 |
| 21年度決算と比べての効果額(千円) | 【記載不要】 | 効果額説明(算出根拠)、特殊要因 | 【政策的事業のため記載不要】 |

6 前期4年間の取組評価(総括)

| 上位の施策への結びつき | 上位施策の目的 | 地域内の従業員、地域内の企業、人材 ①事業活動を改善する ②企業立地、起業、就職できる | 施策の成果指標又はムトス指標 | 新規就業者数 UIターン者数 |
|---|----------|--|----------------|-------------------|
| この事務事業は施策の目的達成にどのような貢献しましたか | 4年間の振り返り | 飯田出身者の集まりである信州飯田ふるさと会との連携、ふるさと大使館による情報発信と連携の推進により、首都圏における飯田出身者や飯田ゆかりの人材とのつながりを深めていく契機となり、これらを出発点として、ネットワークが広がってきている。こうした飯田ゆかりの人材との連携を強めていくことで、首都圏、中京圏における当地のPRにつながり、直接、間接的に企業や人材の誘導に結びついてきている。 | | |
| | 後期に向けた課題 | つなげていく世代や地域などにおいて、若い世代や中京地域、その他の地域に対して、対象を広げていく必要がある。 | | |
| この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか | 4年間の振り返り | ふるさと会の役員の高齢化、メンバーの固定化を避けるために、30代～40代を中心とした世代のネットワーク化を進めるとともに、在京の高校同窓会とも連携していけるよう調整を進めてきた。また、首都圏のほか、中京圏との連携についても、中京圏の高校同窓会や県人会なども連絡を取り合い、関連するイベント等にも出向いて、関係を深めてきている。 | | |
| | 後期に向けた課題 | つなげていく世代や地域などにおいて、若い世代や中京地域、その他の地域に対して、対象を広げていく必要がある。 | | |
| コストを削減するためにどのような工夫をされましたか | 4年間の振り返り | ふるさと会開催時のバス運行の改善やふるさと大使館運営における家賃の値上げ要請に対する対応などを行った。 | | |
| | 後期に向けた課題 | 飯田出身者や飯田ゆかりの人材とのネットワークの方法の多様化をはかり、新しい関係の構築を進めていくこと。 | | |
| 受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか | 4年間の振り返り | ふるさと会開催にあたっては、参加者からも参加費をいただいているほか、役員他からの寄付もいただいて運営しており、市の関与は適切であった。 | | |
| | 後期に向けた課題 | ふるさと寄付などの取り組みとの連携し、さらに関係を深めていけるよう、相応の負担もしつつ、事業を進めていく。 | | |
| 多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか | 4年間の振り返り | ふるさと会連合会が主体的な取り組みにより、出身者の情報交換・情報共有を進めてきている。これに対し、役員会へ参加をしながら、運営をサポートしてきている。 | | |
| | 後期に向けた課題 | つなげていく世代や地域などにおいて、若い世代や中京地域、その他の地域に対して、対象を広げていく必要がある。 | | |
| 全体を通じて | 4年間の振り返り | 隔年開催の2回の総会(東京の飯田会)、ふるさと大使館の運営、ふるさと人材ネットワークの取り組みによる若い世代の組織化への取り組みなどを進めてきた。 | | |
| | 後期に向けた課題 | つなげていく世代や地域などにおいて、若い世代や中京地域、その他の地域に対して、対象を広げていく必要がある。 5月に開催予定であったふるさと会総会についての準備は、すべて整ったが、東日本大震災の影響を受け、延期されている。 | | |

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

| | | | | | |
|----------------------|----|--------------------|----|-----------------------|----|
| 事務事業を統合・分割する必要はありますか | ない | 対象や意図を修正する必要はありますか | ない | 成果指標や指標値を修正する必要はありますか | ない |
|----------------------|----|--------------------|----|-----------------------|----|

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

| | | | | | | | |
|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------------|--|--------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 完了 | <input type="checkbox"/> 拡大 | <input type="checkbox"/> 縮小 | <input type="checkbox"/> 別事業に統合 | <input type="checkbox"/> 休止廃止 | <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 | <input type="checkbox"/> 目的見直し | <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 |
|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------------|--|--------------------------------|-----------------------------------|